

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900677		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム船橋坪井東		
所在地	千葉県船橋市坪井東5-23-6		
自己評価作成日	令和8年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和8年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは外に出る機会を少しでも多く取り、いつまでもご自分の足で歩けるようにと毎日の散歩を徹底して行っております。近くには大きな公園もあり、子供たちや大人が大勢いらっしや地域の方々とのコミュニケーションの場となり私たちも一緒に参加させて頂いております。散歩は全員が参加できるようチェックシートを作成しバラつきがないように参加していただく。また、施設に入居していても当たり前な生活が送れるようにと毎月の外出レクをスタッフが担当となり企画し入居者様が楽しむことが出来るよう活動しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の運営理念をもとに、事業所独自の理念として、「自分の意志で決定し行動する自己決定の支援に努めます」、「私達は残存能力を活かした支援に努めます」、を掲げ、入居者の「歩きたい・食べたい」をかなえるリハビリ重視の取り組みを実践している。施設は、近くに大きな公園など恵まれた環境があり、散歩や多くの子供たちや大人との出会い・コミュニケーションが楽しめるよう支援している。入居者の状況を確認しながらチェックリストを活用してスケジュールを組み、可能な範囲で全員参加できる体制をとっている。「歩行は正直あきらめて居りましたが、次の日から歩くリハビリを始め、ビックリする程はやく歩けるようになりました」と、利用者調査フリーコメントにご家族からの声も届いている。また、1月は初詣、2月はお寿司レクやハンバーグ店、季節のイチゴ狩りやお花見、敬老の日にはホテルの最上階でビュッフェランチなど、施設に入居していても当たり前な生活を送れるようにと、計画的に外出レクを実施しており、理念が実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や朝礼、夕礼の際には必ず運営理念の唱和を行い全スタッフに理念の共有、実践しております。	法人・事業所の理念を、職員同士朝礼で読み合わせし確認し合っている。コミュニケーション力を身につけて、その人らしさを引き出せる取り組みを確認し合っている。介護理念の「地域の人々とのふれあいを大切にします」を実践し、毎日の散歩で地域の方々との挨拶を通して触れ合いを深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会や在宅支援センターと協力し、地域の夏祭りや高齢者に向けた認知症予防説明会などを地域で開催しております。	社会福祉協議会や在宅支援センターと協力し、高齢者に向けた認知症予防説明会などを開催しており、地域での近隣住民からは、足を運びやすくなったと、見学者が増えてきた。一方、地域の夏祭りへの参加や清掃活動については、コロナ前までにはまだ復活していない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にグループホームを知っていただけるような見学会を予定しております。また、夏祭りや地域の方が参加できるようなレクリエーションを開催し説明会を行う予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議を開催し、ご家族様・行政との連携を通じてサービス向上に活かしております。参加出来なかった方には運営推進会議の議事録の送付を実施。	通常、運営推進会議を2ヶ月に一度開催し会議で出された意見や要望を施設運営に反映しているが、今年は一室に会しての会議は市の要請により中止となった。内部で会議を行い、活動状況報告、職員状況、事故報告等を家族、民生委員や在宅支援センターを通して行政へ報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指導監査課への必要連絡を都度行い、在宅支援センターとの連携を通じ地域での取り組みの参加を行っている。	今年も感染予防対策を強化し、役所へは最小限の訪問に留め、必要に応じて電話で対応している。在宅支援センターとの連携も深めており、入居者の紹介や地域住民からの相談とか協力とか、専門職団士の勉強会など、双方向のやり取りを密にし施設運営に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の研修・自己評価を行い、身体拘束廃止委員会の開催を行っている。	3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、自己評価の実施や5つの虐待に関する実践的な研修も実施している。外国人スタッフの研修にも力を入れており、介護の現場で飛び交う言葉や文化の違いは教科書通りにはいかないの、理解するという力を今身につけてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回の定期的な研修やチェックシートを使い日々のケアを務めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修の他に、現在入居中の利用者様の成年後見人より話を聞くなどしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書はすべてを読み上げて上で納得して頂き署名をお願い致しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なケアプランの説明、面会時日々のご様子の説明、必要時カンファレンスを行いご家族様からのご要望等を支援に活かしております。	運営に関する利用者、ご家族からの意見は、ケアプランの説明やカンファレンスの際に、それをどのように受け止め、現場での具体的な改善につなげていか、ホーム長や居室担当者と協議し対応している。認知症等により、ご本人から直接意見を聞くことが難しい場合は、スタッフがご本人の表情・仕草などから、本人に寄り添い取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個別面談を通じてスタッフからの様々な意見や提案を反映するよう対応している。また、関係性診断等のアンケートをネット上で実施し本社集計の元、ホームへ結果をいただく。	毎月行う全体会議やユニット会議で、運営に関する職員の意見や提案を聞き、反映させている。外出やリハビリ系に関する意見が多く、毎朝の清掃で、拭き掃除はするが掃除機は曜日を設定しその空いた時間を利用者様に充てるなど、業務効率とサービスを適正化するなど改善した例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のないシフトを組み、仕事だけではなく人間観やプライベートな悩みなども相談できるような環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修のみならず、外部の研修にも参加を呼び掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市内のグループホーム協議会に登録し交流を図っております。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は他の方以上に話す機会を多く取り、1日でも早く不安を取り除けるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族会を開催し、他のご家族とも交流できる機会を設けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と話す時間を多く取り本人から聞いた話をご家族様に確認しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護現場ではなく、一緒に生活しているという家庭的な環境作りに努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さなことでもご家族と相談しながら進めております。 ご家族様にも協力をいただきながらご本人様の希望の支援に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との関係が今まで通り行えるようにと、ご家族様と相談し外出・外泊などを勧めている。 また、レクなどイベント時も積極的にお誘いしている。	家族との関係が途切れないように、感染症対策に力を入れつつ、面会禁止はせず積極的に来ていただくように声がけしている。毎月発送している坪井通信にご入居者様の様子や、写真を載せてイベントへのお誘いなどして、面会に来ていただけるようすすめている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で行えるレクやスタッフを交えての会話を多く取るように努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、必要な事やお困りごとがあった際相談、支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様より生活歴を聞き参考にしている。入居者様の趣味、特技等を活かした生活が出来よう対応している。	コミュニケーションを図れる入居者とは、コミュニケーションを通して意向を確認して介護している。コミュニケーションを図ることが困難な入居者の意向は、表情やそれまでのかかわりから意向を検討して対応している。また、家族から生活歴を聞いて意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中から既往歴を聞いたり、ご家族様に確認しながらケアに生かしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事は可能な限りご自身で行って頂き、これまでの生活リズムを変えない様に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフや家族だけではなく、医師や看護師、薬剤師など様々な関係者からご意見を頂き作成しております。	両ユニットのケアマネは現場に入って介護に携わっており、申し送りや会議にも参加して利用者の情報を十分に把握している。介護計画は、それら情報の他、医療職にも意見を聞き、家族の意向を確認して立てている。3か月に1回モニタリングし半年に一回見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの記録の他に会話の中で聞いた様々な情報も共有できるように記録しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ・ご家族様と相談し、常に新しい試みを模索し、挑戦しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ後ボランティアの体制も変化があり現在ボランティアの方との連携を図り交流を検討中		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し、緊急時でも受け入れ可能な病院をいくつか確保しております。	かかりつけ医の往診が1か月に2回あり、訪問看護は訪問看護ステーションから毎週あり職員と連携して入居者の健康管理を行っている。緊急時マニュアルを勉強会で時折復習して確認している。かかりつけ医外の診療科の受診は家族と協力して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、看護師と連絡が取れる体制になっており、常に情報の共有に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院可能な病院と協力医療連携を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や必要時の際ご家族様とのカンファレンスを行い方向性、支援方法等を確認している。	ホームには「重度化にかかる指針」があり、入居時に説明している。入居者がそのような状況になる前に、かかりつけ医、ケアマネ、ホーム長で今後の方向性を話し合い確認している。ホームでの看取りを希望したときは看取りの介護計画を立てて支援している。昨年は2名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修の他に、消防署に依頼し救命講習を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の消防訓練を開催し、全職員に避難・誘導方法の共有を行っている。	ホームには災害時マニュアルがあり、それに沿って年に2回計画をたて消防署に届けて自主避難訓練を行っている。今回は夜間に一人どう避難させるか、どのように誘導するかを確認を行った。近隣には、コンビニやスポーツ施設、車関係の会社があり、何かの際に協力を得るために、散歩のときや普段から挨拶して関係づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時、扉を閉める・大きな声で排泄の有無を確認しない、入浴支援は出来る限り同性介助とするなど自尊心を傷つけない声掛けや対応に心掛けております。	日常的に言葉遣いに気を付けて入居者の尊厳を尊重した対応を図っている。職員は定期的にチェックリストを用いて自己の介護の振り返りを行い、結果を会議で話し合っている。排泄介護や入浴介護ではプライバシーを確保して支援している。同性介護を希望した場合は希望に沿った対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム独自の運営理念にて、自己決定の支援を掲げて実践しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様を最優先に支援し、出来る限りおひとりおひとりの希望に添えるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出掛ける際には洋服をご自分で選んでもらい、女性の方にはお化粧の支援も行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在調理済み食材を導入しているため、食事の盛り付け・洗い物や片付け等を一緒に行うようにしている。	食事は完調品を用いて台所で温めて提供している。食事の準備や後かたづけには入居者に手伝ってもらっている。包丁を使って手伝う入居者もいる。ホットケーキ作りでは、粉を混ぜる人、器を抑える人、器の下の布巾を抑える人など皆で楽しみながら参加できるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は細かく記録し、いつもと変わった様子はないか気を付けております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔に気を付けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつなどは出来る限り使用せずに、トイレでの排泄を支援しております。訴えない方でも2～3時間に1回トイレ誘導実施しトイレでの排泄促しを行う。	排泄介護では、介護記録ソフトを用いて、一人一人の排泄パターンを把握して声掛けしトイレで排泄できるように支援している。声掛けにはプライバシーに配慮して誘っている。体操や外出で体を動かし、水分補給で便秘対策を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を使用せずに排泄できるように、日々の生活や食事・水分摂取などに工夫しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回の入浴実施 現在入居されている入居者様関しては皆様、入浴頻度や入浴回数に満足されている。	入所者が週に2～3回入浴できるように計画して支援している。拒否があった場合は、時間を変えたり、職員を変えて誘って入浴してもらっている。入居者は職員と1対1でのお風呂での会話を楽しんでいる。皮膚疾患のある入居者は毎日足浴支援を行い、軟膏を塗布している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活や生活習慣などを考慮し、夜間ゆっくり休めるように工夫しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報や往診時の指示などをまとめたファイルを作成し、共有を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おひとりおひとりに役割を持って頂けるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じてですが毎日AM・PMの散歩を実施。 その他季節を感じられるような外出支援を実施。	外出チェック表を用いて、毎日午前と午後二人ずつ外出できるように計画し、入居者全員がくまなく外出できるように支援している。初もうでやいちご狩り、お花見、お寿司ランチやマクドナルドランチなど毎月計画して出かけている。敬老会には家族も参加してホテルで食事を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩の途中での買い物や、本人希望の買い物などもご家族様と相談し出掛けております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は申し出がございましたらその都度対応致しております。手紙、年賀状などの支援も毎年行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の照明、空調の調整の他にスタッフものんびりした雰囲気を作るように心掛けております。	共有部分はきれいに掃除され清潔で、家具は整理整頓されて安全に移動できるように配置されている。入居者の笑顔が印象的な行事や外出時の写真を大きくプリントして廊下に展示してあり、家族にも好評である。また、レクリエーションで作成したカレンダーや季節の作品が飾ってあり、入居者が楽しんで生活している様子がうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースのテーブルは決まった席を設けておらず、その都度、色々なかたと交流が持てる様に支援しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、見慣れたものに囲まれ落ち着いた生活が出来るように心掛けております。	居室には、自宅から持参した家具やテレビ、椅子などが持ち込まれ、また、趣味のフラダンスのドレスや家族の写真、レクリエーションで作成した作品などが飾られて、その人らしい部屋になるように工夫されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室の表札など見やすく表示し、歩行ルートには物を置かないように努めております。		